

花巻市の人口動態の概況

人口ビジョンの将来人口目標と実績

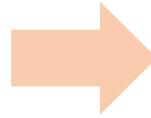
令和5年12月に改訂した花巻市人口ビジョンで、花巻市の総人口は、2040年には約77,800人、2065年には約59,500人を目指すこととしている。

《何も取り組みをしない場合》

【将来人口推計】

人口：2040年 約7.34万人

人口：2065年 約4.82万人



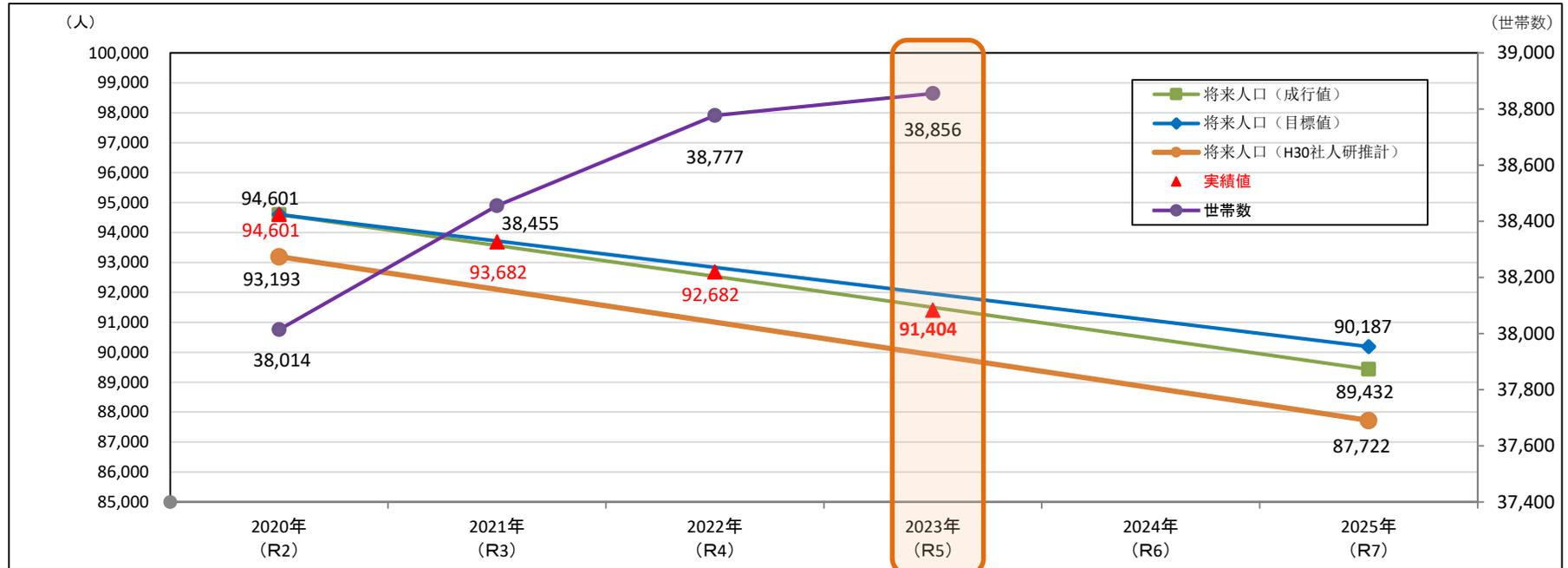
《取り組みを進めた場合》

【目指す将来人口】

人口：2040年 約7.78万人

人口：2065年 約5.95万人

<人口推移>

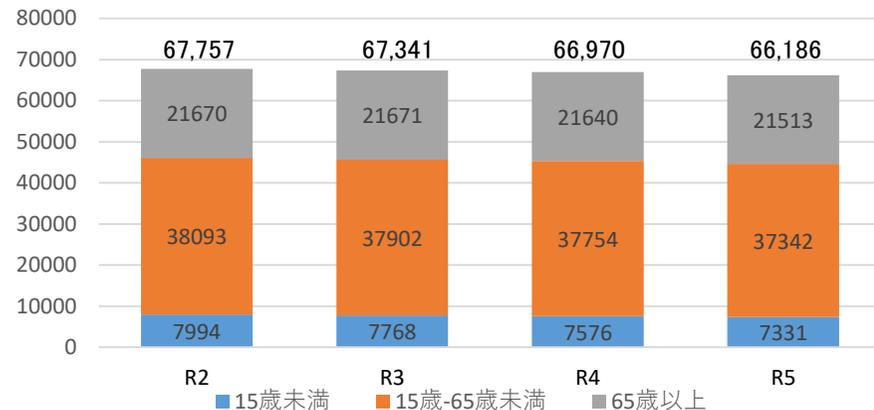


出典：花巻市人口ビジョン（将来人口（目標値）、将来人口（成行値））令和5年12月改訂、
花巻市住民基本台帳（実績値、世帯数：各年10月から9月集計）※花巻市の人口ビジョンは、R2年の94,601人を基準として、将来人口を推計。

- 令和5年の実績値は91,404人で、前年と比較して1,278人減少しており、平成30年国立社会保障・人口問題研究所の推計値を上回り、花巻市人口ビジョンの成行値と同程度となっている。
- 全国の傾向と同様に花巻市においても世帯数の増加が続いており、単独世帯や核家族世帯が増加していると考えられる。

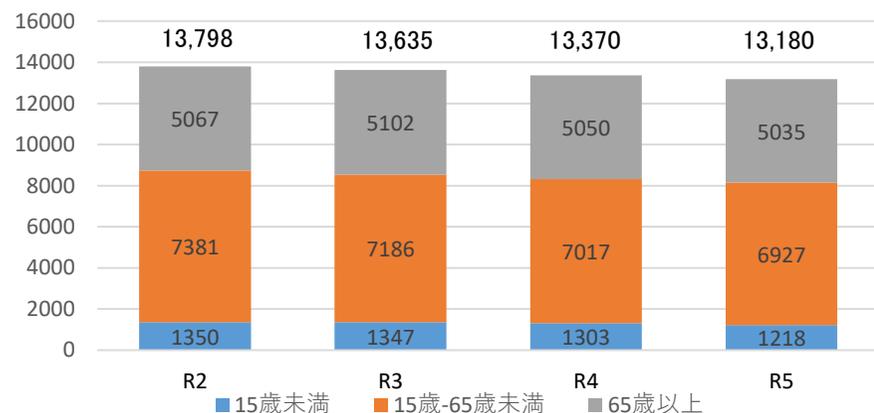
地域別の年齢3区分別人口

<花巻地域>



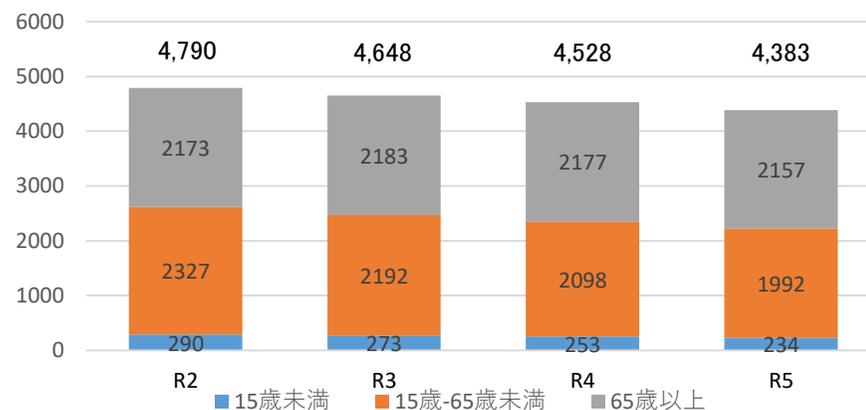
・令和4年の66,970人を784人下回る66,186人となった。

<石鳥谷地域>



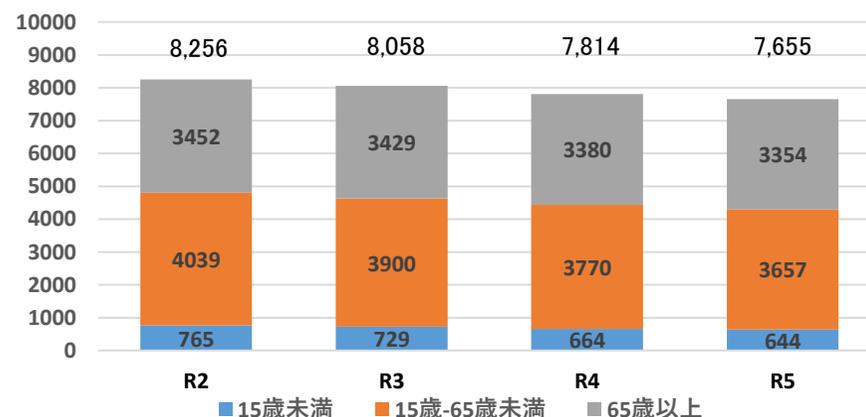
・令和4年の13,370人を190人下回る13,180人となった。

<大迫地域>



・令和4年の4,528人を145人下回る4,383人となった。

<東和地域>



・令和4年の7,814人を159人下回る7,655人となった。

出典：住民記録 年齢別人口集計表（各年10月1日時点）

- 令和5年は4地域すべてにおいて令和4年と比べて各年代の人口が減少している。
- 大迫・東和地域は過疎地域に指定されており、令和3年3月に策定した第2期花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略と令和3年度に策定した「花巻市過疎地域持続的発展計画」に掲げる取り組みを併せて実施している。

将来人口目標達成のための取り組み

【本市の人口推計結果と将来人口目標の設定（花巻市人口ビジョン（令和5年12月改訂））】

将来人口
推計

《何も取り組みをしない場合》
2040年 約7.34万人
2065年 約4.82万人



将来人口
目標

《取り組みを進めた場合》
2040年 約7.78万人
2065年 約5.95万人

取組
①

合計特殊出生率を上げる

2030年に1.8、2040年に2.07（人口置換水準）を目指す

取組
②

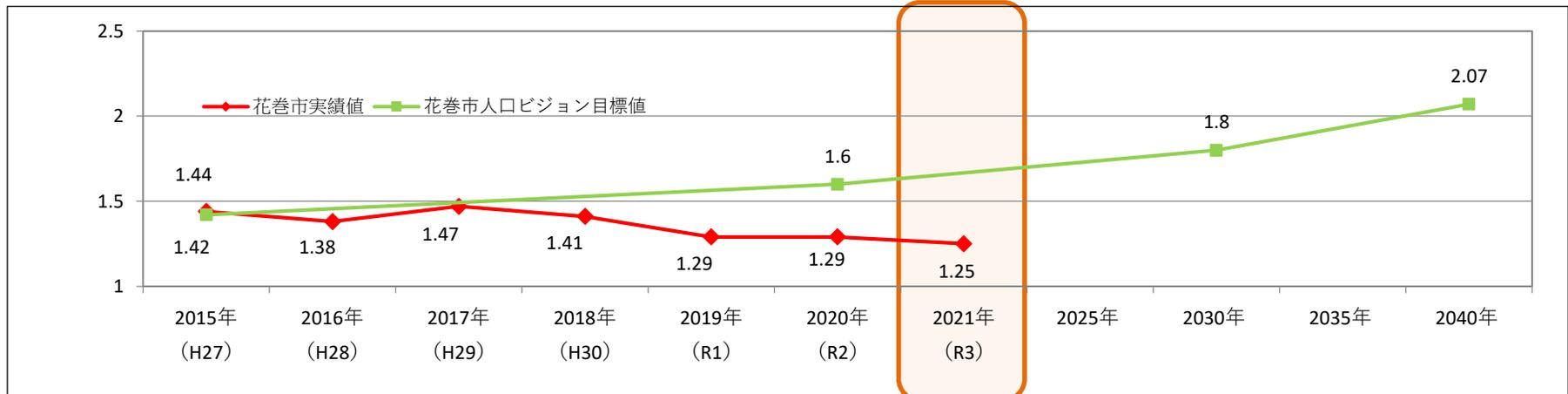
移動率を改善させる（ターゲット層）～流出超過の抑制、UIターンを促進

- ・20代までの若者の流出超過の抑制（2034年までの間に流出が次第に低減）
- ・30代の若者のUIターンを促進（2029年までUターン者が増加）

①合計特殊出生率を上げる

花巻市人口ビジョンにおいて、花巻市の合計特殊出生率は国が定める「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）」と同数の2030年に1.8、2040年に2.07（人口置換水準）を目指すとしている

<合計特殊出生率>

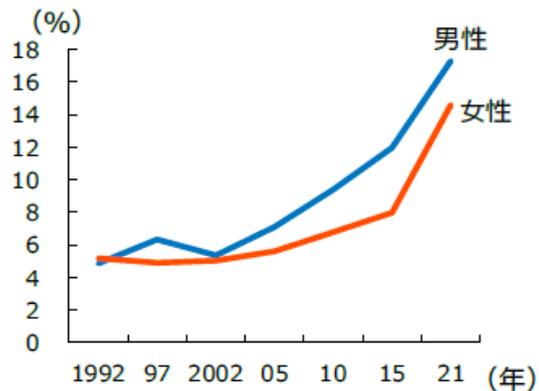


- 合計特殊出生率は令和元年に1.29に低下し、令和2年は横ばいとなっていたが、令和3年において1.25へ低下した。全国的にも減少傾向にあり、その要因として日本の場合出生は結婚が前提となる風潮にあることから、非婚希望者比率の増などを背景とした非婚化※1による出生数の減少が一因と考えられる。また新型コロナウイルス感染症の影響による出産控え※2も減少に拍車をかけた要因の一つとして考えられる。
- 市が取り組むべき子育て支援策について、第2次花巻市まちづくり総合計画の重点施策推進プロジェクト「子ども・子育て応援プロジェクト」に基づき実施していく。

※1 婚姻数急減の理由

婚姻数が急減した主な理由は、若い世代の結婚意欲の低下が示唆される。社人研の「第16回出生動向基本調査（2021.6）」によると特に女性で一生結婚するつもりのない人の割合の伸びが顕著

(図表4) 一生結婚するつもりのない人の割合



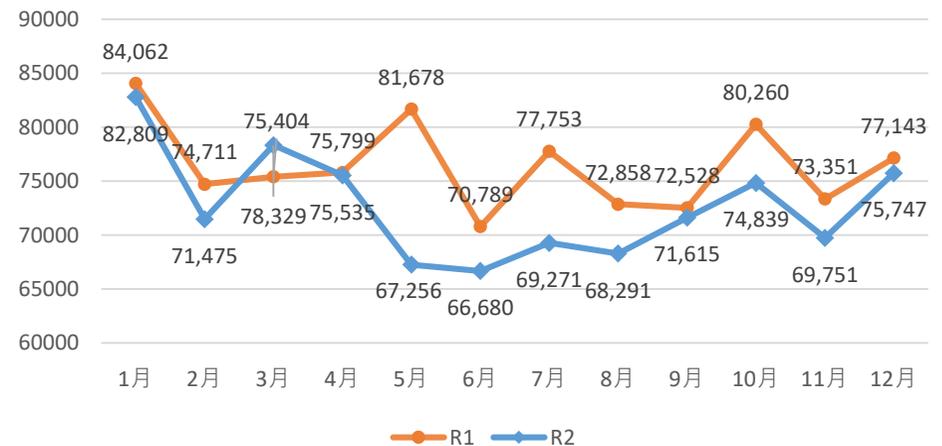
(注) 18～34歳の未婚男女

資料：国立社会保障・人口問題研究所「2021年出生動向基本調査」

※2 コロナによる出産控えの傾向

妊娠届出数について、政府が新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため1回目の緊急事態宣言を出した直後の令和2年5月から前年比で大きく落ち込んでいることから、令和3年の出生数の減は新型コロナウイルス感染症の影響と推測される。

月別妊娠届け出数の推移



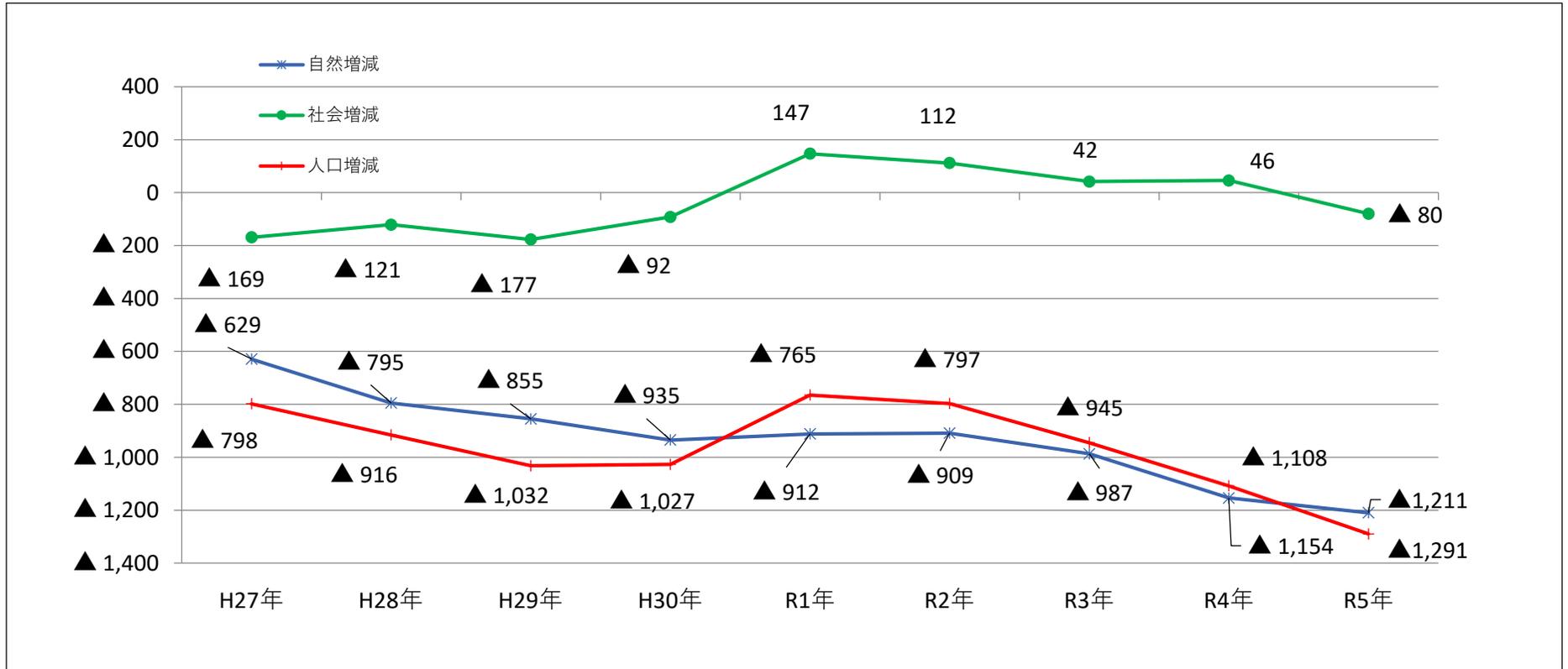
出典：厚生労働省「妊娠届出数の推移等」

将来人口目標達成のための取り組み

②移動率を改善させる～流出超過の抑制、Uターンを促進

- ・ 20代までの若者の流出超過の抑制
- ・ 30代の若者のUターンを促進

<人口動態>



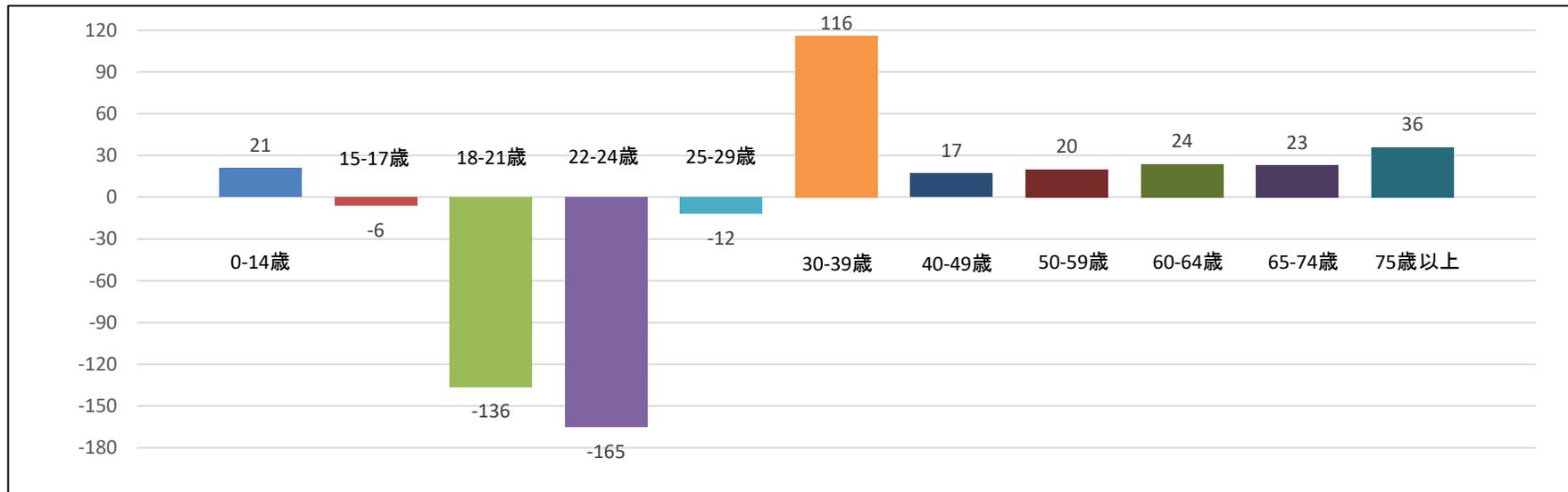
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態および世帯数調査（各年1月1日現在）」

※令和4年の調査結果は令和5年8月に公表

※令和5年は花巻市住民基本台帳に基づく集計による速報値（令和5年1月から12月末）

※外国からの転出入（国籍不問）を含む

(参考) 令和5年における年代別社会増減数

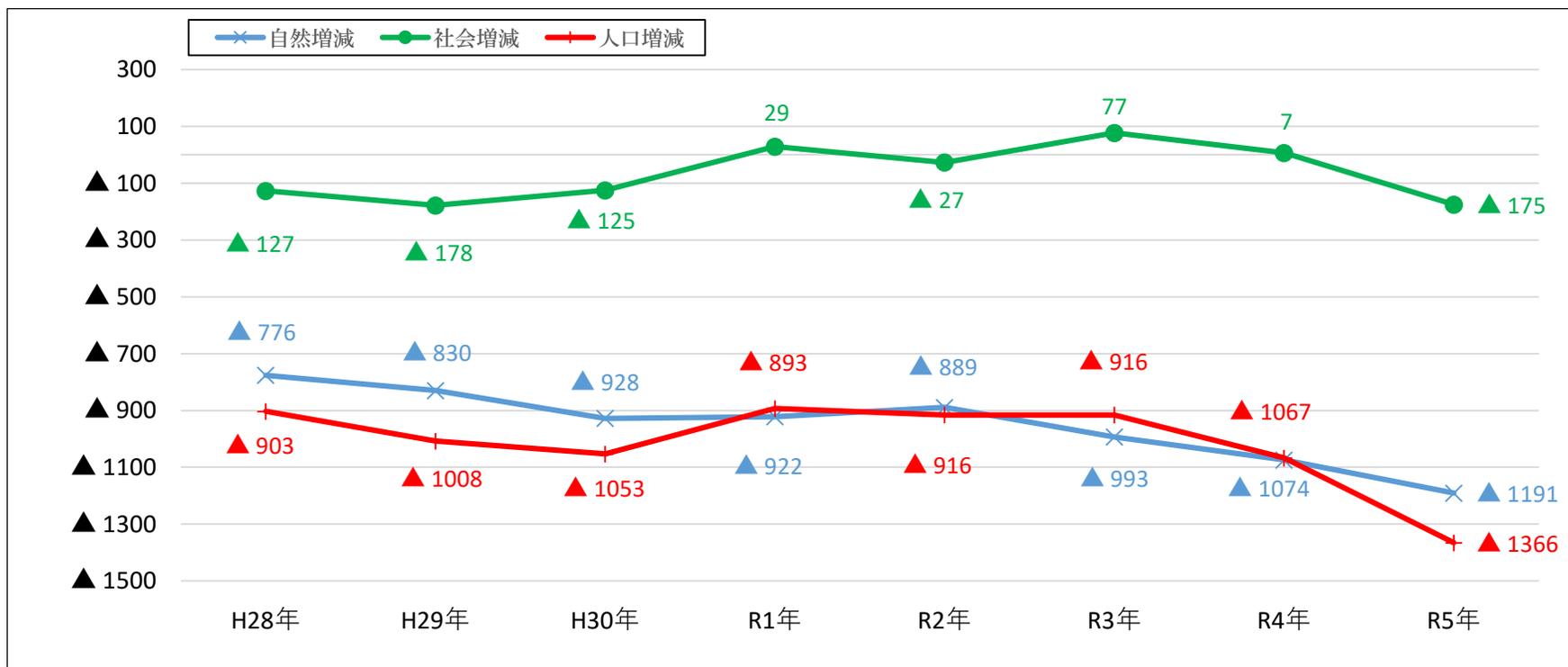


出典：花巻市住民基本台帳（令和4年10月から令和5年9月末集計）より作成

※岩手県人口移動報告年報では年代別の社会増減についての数値が公表されていないため、独自に花巻市住民基本台帳を基に同期間における集計を行った。

- 「社会増減」の推移：令和5年においては転出超過となった。
 - ・ 「令和5年における年代別社会増減数」によると、0歳から14歳及び30歳から39歳までの年代は令和4年までの転入超過の傾向が継続している。このほか、国外からの転入については、18歳から39歳までを始めとした多くの年代で転入超過となっている。
 - ・ しかしながら、18歳から24歳については大きく転出超過となり、特に22歳から24歳の年代は前年と比べ転出者が増加している。全国的にコロナ禍を背景に弱まっていた転出の動きの揺り戻しがみられ、本市においては新卒者（新規大学等卒業者）の宮城県・関東圏への県外就職の増加などが主な要因と考えられる。
- 「自然増減」の推移：死亡数が出生数を上回る「自然減」が継続している。
 - ・ 65歳以上の高齢人口のうち75歳以上は微増傾向だが、全体としては減少傾向にあり、出生数も減少していることから自然減が継続すると見込まれる

(参考) 人口動態 (第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略 基本目標2の数値目標として使用)



出典：岩手県人口移動報告年報（前年10月から9月末）
 ※外国籍の人数を含まず